

シグマ委員会
6年度第1回運営委員会議事録

日時： 1994年 4月21日（金） 13:30～17:30
場所： 日本原子力研究所本部 第3会議室
出席者： 中嶋（法大、主査）、北沢（東工大）、石川（動燃）、瑞慶覧（日立）、
山野（住友原工）、村尾（吉田弘幸氏代理）、菊池、前川、水本、
中川（以上原研）
幹事： 中島（原研）
オブザーバー： 松延（住友原工）、岡本（原産）、岸田（CRC）、高野（原研）

配布資料

1. 平成5年度第4回運営委員会議事録（案）
2. 諮問・調整委員会議事録（案）
3. 光核反応データWG1993年度活動報告及び1994年度活動計画
4. LWR積分テストWG活動報告
5. FBR積分テストWG活動報告
6. 核融合ニュートロニクス積分テストWG1994年度活動計画
7. 核種生成量評価WG1993年度報告と1994年度計画
8. COMRAD及びORIGEN-2コード用1群定数ライブラリーの整備計画
9. 本委員及び運営委員の交代、WGの改廃

議 事

I. 議事録確認

1. 前回2月25日の議事録（配布資料1）を確認した。

II. 報告事項

1. 原研原子炉工学部の人事異動について

中島氏が次の通り報告した。4月1日付けで人事異動があり、原子炉工学部長が平岡徹氏から吉田 弘幸氏に変わった。従ってシグマ研究委員会委員長も平岡氏から吉田氏に変わった。ただし運営委員会には次長の村尾良夫氏が常時出席する。

2. 委員会旅費について

菊池氏と中島氏から「本年度の委員会旅費は実質的にはほぼ一昨年度並の額がついたの
で、WGの会合も一昨年並に開催できる見通しである」との報告があった。

3. 諮問・調整委員会報告

水本氏が配布資料2により、3月11日に開催された諮問・調整委員会について次の通り報告した。シグマ委員会の将来に関して次の項目について前回に引き続き討論を行った。これらを答申案としてまとめ、7月に開催される本委員会に提出する。

（1）核データの普及について、（2）JENDL-3.2の充実、（3）人員構成・後継者の育成、（4）新しい核データのニーズ、（5）10年後の原子力を予想した体力づくり、（6）国際協力

4. 7年度の概算要求について

菊池氏が原研核データセンターの7年度概算要求について次の通り報告した。国際データセンターからのオンラインデータ取得ならびに国内利用者へのオンラインデータサービスのためにワークステーションを要求した。アジア地域研究センターは核データだけでなくもっと広い分野のセンターとした方がよいとの指摘があり、来年度概算要求することに

した。これに対して利用するネットワークは費用の利用者側負担のないものを考えて欲しいとの要望があり、予算がついた時点で、利用者の要望を聞いて決めたいと回答があった。

Ⅲ. 審議事項

1. サンプルとターゲットとに関するWG設立について

岡本氏から改めてこのワーキンググループの設立の必要性について説明があり、設立の可否について討論した。提起された問題はいずれも重要なものであり、シグマ委員会の活動を広げることにもなるとの意見が大勢であったが、ワーキンググループのミッションとして考えた場合、ふさわしくないテーマや他のWGのテーマなどが含まれているとの指摘があった。今年の夏頃再提案することにするとの岡本氏の意見で今回の提案は取り下げとなった。

2. 各WGの1993年度作業報告と1994年度計画

(1) 荷電粒子核データWG

松延氏が次の通り報告した。昨年度は開店休業状態で一度も会合を開かなかった。メンバーは20数名いるが大半は高エネルギー核データ関係者であり、(α, n)関係が3名、核融合反応関係が2名である。高エネルギー核データは他のWGのテーマであり、その他の荷電粒子核データに対する要求があまりないので、出来ればこのWGを解散したい。これに対して、従来このWGでやっていた(α, n)反応の評価を終え、ファイルを完成して欲しい、WGのメンバーの見直しをして欲しいなどの要望があった。

(2) 光核反応データWG

岸田氏が配布資料3により次の通り報告した。昨年度はD, Uの評価を完了し、U-235、-238のファイル化の第一段階を終了した。今年度は昨年度までに評価した核種の断面積のファイル化を完了させたいので、ファイル編集委員会との協議を持ちたい。評価結果をまとめて、JAERI-Mに投稿する。また今年度は最低3回のWG会合を開きたい。

(3) LWR積分テストWG

高野氏が配布資料4により次の通り報告した。昨年度はJENDL-3.2の軽水炉積分テストを行い、全体としてはJENDL-3.1よりは改善されていることがわかった。今年度はJENDL-3.2ライブラリーの処理と断面積ライブラリーの公開、決定論的手法コード間の差の検討、連続エネルギーモンテカルロコード間の差の検討、実規模PWR炉心の検証ベンチマークを行う予定である。

(4) FBR積分テストWG

高野氏が配布資料5により次の通り報告した。昨年度はJENDL-3.2のベンチマーク計算を行い、全体としてJENDL-3.1より改善されていることがわかった。今年度はFCAでの測定データによるJENDL-3.2のベンチマークテスト、感度解析、MVPによる解析を行う予定である。

(5) Fusion Neutronics 積分テストWG

前川氏が配布資料6により次の通り報告した。昨年度はJENDL-3.2が未完成だったので主だった活動はしなかった。今年度は核融合炉核データのJENDL-3.2のベンチマーク計算を行う予定である。今年度からWGリーダーを大山氏にする。

(6) 核種生成量評価WG

配布資料7により菊池氏が次の通り報告した。使用済燃料中の核種組成測定データの収集を引き続き行った。1992年度まとめた報告書「軽水炉使用済燃料中の核種組成データ集」の英訳を米国ORNLの協力を受けて完成した。またCOMRADコード用1群定数ライブラリー(PWR用)をJENDL-3.2から作成した。今年度は使用済燃料核

種組成データの整備、JENDL-3.2をベースにしたCOMRAD及びORIGEN-2コード用1群定数ライブラリーの整備を行う。

(7) COMRAD及びORIGEN-2コード用1群定数ライブラリーの整備計画
菊池氏が配布資料8により次の通り説明した。5年計画で上記1群定数を整備する。先ずCOMRADコード用の1群定数を作成し次にORIGEN-2コード用定数を整備する。各段階で精度評価を行う。これに対し、この整備計画は時宜に叶ったものであるとの意見が大勢であった。さらに進んで任意の入力スペクトルで1群定数が作成できるものも整備して欲しいとの要望もあった。

3. 委員会人事及びWGの改廃

中島氏が配布資料9に基づいて次の通り提案した。本委員及び運営委員の若林利夫(動燃)が石川真氏(動燃)に交代する。評価国際協力WGは廃止する。このWGはここ数年開催されておらず、必要なら臨時にグループを作って開催することとする。LWR積分テストWGとFBR積分テストWGは合併しリアクター積分テストWGとし、高野秀機氏(原研)にWGリーダーをお願いする。FBR積分テストWGはこの何年かは独自に開催されず、活動内容もオーバーラップする面が多いのが提案の理由である。以上の件は提案通り承認され次回本委員会に提案することにした。また菊池氏からシグマ研究会委員長の代理者を本委員及び運営委員にするよう規定の変更をしたい旨提案があり、次回本委員会に提案することにした。

4. 1994年核データ研究会について

中川氏が「核データ研究会の実行委員長は2年続けるのが慣例であるので今年度は昨年度に引き続き川合将義氏(東芝)をお願いすることにした」と提案し、承認された。また実行委員は概ね昨年度通りとするが、一部は変更せざるを得ないので、人選は実行委員長と事務局に一任して欲しいとの提案があり承認された。

5. 秋の原子力学会「核データ・炉物理合同特別会合」のテーマについて

上記のテーマとして、「オックスフォード大学における核物理・核データ研究(九大総理工 渡辺 幸信氏)」と「マイナーアクチノイド核データの現状(原研 中川 庸雄氏)」とすることとした。

6. 本委員会について

7月8日(金)に開催することとし、特別講演は核データ国際会議(Gattingburg)報告(講演者は国際会議出席者から人選)とした。(その後会議室の都合から7月1日(金)に変更になった)

IV. その他

次回は6月17日(金)に東京で開く。

宿題事項

担 当	宿 題 事 項	期 限
事務局	WGリーダーに会合を一昨年並みの回数で開いても良いことを伝える。	早 急
事務局	合同特別会合の議題を平川氏(東北大)に連絡する。	早 急
松延氏	荷電粒子核データWGのメンバーを整理する。	早 急